



その 297

クロースアップ21

2グリーンにバミューダ芝導入 京都カントリー倶楽部

夏場に強い特徴を活かし、年間を通して良好なコンディションへ

京都カントリー倶楽部（18H、福岡県京都郡）は、福岡県北東部に位置する丘陵コースである。

ゴルフ場の年間来場者数（23・24年度）は約4万人で、会員数は約560人。女性比率は11%、来場者の大半は北九州市などの近隣地域からの来場が多く、県外・国外からでは大分県からの来場や韓国からも10%程度の来場があるという。

京都CCはメイン・サブグリーンの2グリーンをバミューダ芝に転換し、近年ゴルフ業界から注目を集めている。ゴルフ場の主な取り組みやバミューダ芝のコース管理などについて茂木



京都CC茂木邦彰業務部長（右）と谷口昌彦グリーンキーパー（左）

邦彰業務部長と谷口昌彦グリーンキーパーよりお話をいただいたので、各取り組みの内容を紹介していきたい。

23年にメイングリーンをバミューダ芝に転換、今年にサブグリーンをバミューダ芝へ

同倶楽部は、23年にメイングリーンをバミューダ芝に転換し、今年にサブグリーンをバミューダ芝へ転換した。2グリーンにバミューダ芝を導入するのは福岡県では初という。今年はタイミングよく夜の時間帯に雨が降ることが多く、ゴルフ場の芝状態は良好とのこと。谷口グリーンキーパーは今回のバミューダ芝導入について感想を述べた。

「バミューダ芝は夏越しをしつかりと乗り切れますし、管理人数が少なくなるので、ベントグリーンよりも病気や水管理に神経を使わずに管理ができます。ベントは今の時期に刈高を上げなければなりません、バミューダはコンパクションがあり、

伊藤隆弘氏
(GREENKEEPERSUPPORT合同会社)



ボールマークも付きにくいので夏のグリーン管理がとにかく楽ですし、冬場の管理にもあまり手がかかりません。伊藤さんにバミューダを紹介していただき



23年にメイングリーンをティフイーグルに転換



今年5月末にはサブグリーンをチャンピオンドwarfへ転換した

たお陰でベントグリーンの時よりも予算を落とすことが出来ました。独学で管理しても失敗は出来ませんので、こればかりは今までに経験された方に色々な事を聞く必要があります。ベントにしがみついて気候の影響で芝が悪くなるよりはバミューダが一番だと実感しました。ゴルフファアからも芝コンディションは好評ですね」(谷口グリーンキーパー)



目砂を撒く作業風景

京都CCのバミューダ芝の導入について、GREENKEEPERSUPPORT合同会社の代表社員で芝草管理技術者1級と1級土木施工管理技士の資格を持つ伊藤隆弘氏から説明があった。伊藤氏は同倶楽部のバミューダ芝導入について次のように語っている。

に品種転換の施工を行い、同年9月からティフイーグルの使用が可能になりました。今回も5月末からサブグリーンをチャンピオンドwarfに品種転換しています。サブグリーンはもう少しで使えるようになる予定です。バミューダ芝を撒いていた時は1〜2週間に1回、最低でも月1回はコースを見るようにしています。来年にティフイーグルやチャンピオンドwarfの種の



専用マットで砂をグリーンに擦り込む

価格が上がってしまうので、無事に導入することができて良かったです」（伊藤氏）

キーパーによると近年のコース改修については、主に樹木の伐採が多いという。コースに対してバンカーの面積が大きいので整備が大変だそう。1つのバンカーあたり2トトラック3台分の砂の補充が必要のため、雨天時に流出した砂を元に戻すのに重機が必要になるバンカー



仕上げはスプリンクラーで水撒き

はなるべく潰して芝地を増やしている。今後はコースのバンカーを縮小していくとのこと。

その他にもオーナーの意向で1番、10番、15番のバックティを新たに作った。これからも数カ所のティの拡張や排水マスの修復など、コース管理がよりしやすい環境にしていくとしている。

また、コース管理課の従業員教育や人材確保について、現在



京都CCは大きなバンカーが特徴

はコースに興味を持つ人が少なく、キーパーになりたい人が中々出てこないとのこと。現在のコース管理スタッフはパートを含めて16名で平均年齢が約60歳になるため、可能であれば人が居るうちに経験のない若手を確保したいという。今後は人材が大切になるため、管理スタッフが入った場合は現場で一から大事に育てていくとしている。

24年に自動精算機を導入、ゴルフ場のDX・省力化へ

同CCのDXの取り組みについて茂木業務部長より説明を受けた。

「当倶楽部では、DXを進めています。24年に自動精算機を2台（現金・クレジットカード専用、クレジットカード専用）導入しました。掃除ロボットは以前から使用しています。自動チャックインにつきましては現状での対応は難しいです。特に年配の方は受付に誰か居ないと自動精算が出来ない方もいますので、省力化を図るために、自



24年に自動精算機を導入

動精算に関して用のある方はベルを鳴らすなど、人が居なくても精算ができるシステムにしていくことが大事だと思います。また、予約の管理は売上に直結するので、今後予約システムにAIが入れば、より良くなるのではないかと予想しています」

23年夏より韓国ツアー会社と協力し、韓国人ゴルファの獲得へ

同倶楽部はインバウンド対策

として23年夏から韓国ツアー会社と協力し、ツアーバスを準備して韓国人ゴルフアークが来場できる取り組みを行っている。

北九州空港からの便が1日1〜2便と少ないため、2台体制にして便の多い福岡空港から入れるようにしているとのこと。福岡空港からは高速道路を使って約1時間程度かかるが、例えば3泊4日のツアーで同倶楽部や近隣ゴルフ場を回ること地域のためにもなるという。

今年の7〜8月は暑さや災害予知の影響で来場者が減少したが、9月後半から予約がどんどん入ってきているので、売上を伸ばすためにも10月〜12月で盛り返していくとしている。

レストラン運営会社を新たに創設し運営を円滑化。人気メニューは『きりん寺の油そば』

ゴルフ場のレストランについて茂木業務部長からお話をいただいた。

レストランの運営について、



平日1日20限定の『きりん寺の油そば』

以前は別会社に委託を依頼していたが、運営をより円滑にするために茂木業務部長がレストラン運営会社を新たに創設した。ゴルフ場から委託を受ける形で現在のゴルフ場レストランを運営している。人員の管理がしやすいという。リゾート施設として有名な「ぶどうの樹」ともコラボし、土日はぶどうの樹の食材を使用したビュッフェ形式でランチを提供。平日は通常メニューで運営している。メニューは季節ごとに入れ替えを行っており、夏場はそばが人気で冬場はちゃんぽんが人気という。

油そば・きりん寺については、ゴルフ場のオーナーがきりん寺の社長と親交があり今回のコラボが実現した。

きりん寺は関西中心に店舗を構えており、関東では都内に1店舗、近年では小倉に店舗を出している。同倶楽部で1番人気の『きりん寺の油そば』は1日20限定。今後、反次次第で、数を増やすことも検討している。

最後に茂木業務部長と谷口グリーンキーパーは今後の意気込みを話した。



油そば きりん寺 小倉魚町店の外観

「当倶楽部は今年の50周年記念に合わせて両グリーン共バミューダ芝にしました。2グリーンをバミューダにしているゴルフ場は全国的にも少ないと思います。バミューダにしてみても数年も経っていませんが、先駆けしてやっているのでゴルフ業界や業者さんからは注目されていると思います。夏場に強いバミューダグリーンをこれからも売り込みしていきたいです」(茂木業務部長)

「日本はあまりにも綺麗なゴルフ場を作りすぎていると思います。ゴルフ場に対してはもう少しキーパーの負担や苦勞を理解していただきたいです。どこのゴルフ場も人員の管理面で上手くやっていけるようにキーパーやコース管理のことを考えてもらえれば良いですね。今後は夏場に強いバミューダ芝の特徴を活かし、年間を通して良好なコンディションを維持していきたいと思っています」(谷口グリーンキーパー)